

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語Ⅱ			
科目基礎情報									
科目番号		0031		科目区分		一般 / 必修			
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科		一般教育科		対象学年		4			
開設期		前期		週時間数		2			
教科書/教材		「上級へのとびら」及び教師オリジナル教材、視聴覚教材等を使用する。							
担当教員		松田 由美子,兵藤 桃香							
到達目標									
(科目コード：M 10920、EE 20920、EC 30920、Mb 40920、Ci 50920、英語名：JapaneseⅡ) この科目は長岡高専の学習・教育目標の(B)と主体的に関わる。この科目の到達目標と 各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育到達目標との関連の順で次に示す。 ①語彙や表現力の拡大を図る。また、日本語に特有の細かな表現の違いなどを理解できる力をつける。30 % (b1),(b2) ②さまざまなタイプの文章を速読し、内容を素早く理解できる力をつける。30 % (b2) ③長文のレポートや小論文などを書く力をつける。40 % (b2)									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
語彙や表現力の拡大を図る。また、日本語に特有の細かな表現の違いなどを理解できる力をつける。		語彙や表現力の拡大を図る。また、日本語に特有の細かな表現の違いなどを詳細に理解できる力をつける。		語彙や表現力の拡大を図る。また、日本語に特有の細かな表現の違いなどを理解できる力をつける。		語彙や表現力の拡大を図る。また、日本語に特有の細かな表現の違いなどを概ね理解できる力をつける。		先に達していない	
さまざまなタイプの文章を速読し、内容を素早く理解できる力をつける。		さまざまなタイプの文章を速読し、内容を詳細に素早く理解できる力をつける。		さまざまなタイプの文章を速読し、内容を素早く理解できる力をつける。		さまざまなタイプの文章を速読し、内容を素早く概ね理解できる力をつける。		先に達していない	
長文のレポートや小論文などを書く力をつける。		長文のレポートや小論文などを詳細に書く力をつける。		長文のレポートや小論文などを書く力をつける。		長文のレポートや小論文などを概ね書く力をつける。		先に達していない	
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要		留学生が日本語を使って、自分に必要な情報を自由に収集し、かつ自在に発信できるよう、日本語の基礎力をさらに強化する。 ○関連する科目：すべての科目（すべての科目は基本的に日本語を使って行われるため）							
授業の進め方・方法		教科書及び教師作成教材を中心に視聴覚教材も使用する。							
注意点		授業に関する予習、復習が要求される。また、語学は運用することが重要なので、各自が日々日本語に関心を持ち、運用する地道な努力が必要とされる。 本科目は本来、面接授業として実施予定しているものであるが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態においては、必要に応じて遠隔授業として実施するものである。							
授業の属性・履修上の区分									
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	「上級へのとびら」 8課						
		2週	「上級へのとびら」 8課						
		3週	「上級へのとびら」 8課						
		4週	「上級へのとびら」 8課						
		5週	その他 教材①						
		6週	「上級へのとびら」 9課						
		7週	「上級へのとびら」 9課						
		8週	「上級へのとびら」 9課						
	2ndQ	9週	「上級へのとびら」 9課						
		10週	その他 教材②						
		11週	「上級へのとびら」 10課						
		12週	「上級へのとびら」 10課						
		13週	「上級へのとびら」 10課						
		14週	「上級へのとびら」 10課						
		15週	その他 教材③						
		16週	前期末試験 ビデオ等による発展授業						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週		
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。		3	前1		
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。		3	前1		
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。		3	前1		
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。		3	前1		
評価割合									
		課題（前期）		学年末試験		その他の課題		合計	

綜合評價割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100
専門的能力	0	0	0	0